

穴粟で暮らし始めて

畑にいつ、何を植えればいいのか。野菜作り1年目は、ほぼ全てを近隣住民の助言通りにやっていた。ところが2年目になると欲が出て、自分が食べたいものを育てたい気になった。

そんな時、大学のフィールド・スタディー授業で10年ほど通った中国・雲南省で食べたもちり肉厚のトウモロコシの味が恋しくなった。そこで、よく似た品種の種をインターネットで購入し、わが家の遊牧民農園で育てることにした。

だが手狭なため多くを栽培できない。悩んでいたところ、お隣さんが「畑の一角を使ってもいいよ」と申し出てくれたため、ありがたく種をまかせてもらった。牛ふんの堆肥も入れて育てると、背丈がぐんぐん伸びてい

雲南省の味、見守られ成長

トウモロコシ

く。あつという間に3倍を超え、普通のトウモロコシの倍ほどになった。

「何を育てているんですか」「新種の作物ですか」と方々から尋ねられ、私も「いったい何が実るのか」と不安になるほど。丈があり過ぎて倒れるものも出てきたため、近隣住民と相談し、茎を束ねるなど工夫を重ねて夏

を乗り切った。

なかなか実がつかず、やきもきさせられたが、7月初旬から一気に実が太り、お裾分けできるくらいに収穫できた。「無事に実って良かった」と声をかけてもらい、ようやく肩の荷が下りた思いだ。

ゆでたてにかぶりつくと、雲南省の屋台で食べた味が口の中に広がる。いや、地域の人たちに見守ってもらいながら育った分だけ、こちらの方がおいしい。（大阪大招聘・客員教授 思沁夫）



中国・雲南省で食べた味が恋しくて育てたトウモロコシ＝穴粟市山崎町宇野

掲載年月日：2022年11月18日

掲載面・ページ：朝刊・西播 20

見出し：雲南省の味、見守られ成長